

## 中央アジア関連研究文献リスト 2014

本リストは、2014年（1月～12月）に刊行された、原則としてイスラーム化以降の中国新疆および旧ソ連領のムスリム地域およびその周辺地域に関する学術文献をリストアップしたものである（理科系のものを除く）。原則的に、国内で刊行された、国内で活動する研究者による著作を中心とし、エッセイや事典項目等は除外した。ただし、本学会会員の著作については、海外刊行のものも一部含まれる。なお、各文献の副題はコロンつなぎで統一した。

## 書籍

小沼孝博『清と中央アジア草原：遊牧民の世界から帝国の辺境へ』東京大学出版会（7,500円）  
 帯谷知可編『トルキスタン集成全 594 巻巻別インデクス』京都大学地域研究統合情報センター

川口琢司『ティムール帝国』（講談社選書メチエ, 570）講談社（1,750円）

久保一之『ティムール：草原とオアシスの覇者』（世界史リブレット人 36）山川出版社（864円）

小松久男『激動の中のイスラーム：中央アジア近現代史』（イスラームを知る 18）山川出版社（1,200円）

塩谷哲史『中央アジア灌漑史序説：ラウザーン運河とヒヴァ・ハン国の興亡』風響社（5,000円）  
 シャザディグリ・シャウティ（夏扎提古麗沙吾提）『マスコミ理論とライフスタイル：新疆ウイグル自治区における調査研究』学文社（5,400円）

ダダバエフ, ティムール『中央アジアの国際関係』東京大学出版会（5,000円）

野田仁編『中国新疆のムスリム史：教育、民族、言語』（早稲田大学アジア・ムスリム研究所リサーチペーパー・シリーズ Vol.2）早稲田大学重点領域研究機構プロジェクト研究所  
 早稲田大学アジア・ムスリム研究所（非売品）

「近代中国におけるムスリム・マイノリティの教育：新疆のウイグル人の学校教育を事例として」（清水由里子）

「教育・言語政策の中のムスリム・マイノリティ：新疆のカザフの場合」（野田仁）

を所収

橋本伸也編『ロシア帝国の民族知識人：大学・学知・ネットワーク』昭和堂（6,000円）

「ロシア帝国支配地域の民族知識人と大学」（橋本伸也）

「グルジア語読本とロシア語読本の共犯関係：グルジア識字普及協会の活動」（伊藤順二）

「ヴォルガ・ウラル地域のテュルク系ムスリム知識人と女性の啓蒙・教育」（磯貝真澄）

「イスラーム教育ネットワークの形成と変容：一九世紀から二〇世紀初頭のヴォルガ・ウラル地域」（長縄宣博）

などを所収

バーブル（著）、間野英二（翻訳）『バーブル・ナーマ1：ムガル帝国創設者の回想録』（東洋文庫）平凡社（3,240円）

バーブル（著）、間野英二（翻訳）『バーブル・ナーマ2：ムガル帝国創設者の回想録』（東洋文庫）平凡社（3,348円）

堀川徹編『知の継承と展開：イスラームの東と西』（知のユーラシア2）明治書院（2,800円）

「学知の継承と異文化との対話」（堀川徹）

「ユーラシアの知の伝達におけるシリア語の役割」（高橋英海）

「イスラーム思想におけるイラン的要素」（矢島洋一）

「イブン・スィナーの思想世界：知的自伝を読む」（小林春夫著）

などを所収

堀川徹、大江泰一郎、磯貝健一編『シャリーアとロシア帝国：近代中央ユーラシアの法と社会』臨川書店（4,000円）

「シャリーアとロシア帝国：その時代背景と本書の構成」（堀川徹）

「中央アジアにおけるロシア法とイスラーム法の交錯：土地所有権を中心として」（大江泰一郎）

「ヒヴァ・ハン国と企業家：イチャン・カラ博物館の一勅令を手がかりに」（塩谷哲史）

「カザフ遊牧民の「慣習法」と裁判：ロシア統治期イリ地方の事例から見る帝国の司法制度と紛争解決」（野田仁）

などを所収

宮田律『イスラーム：中国への抵抗論理』イースト・プレス（861円）

楊海英編『中央ユーラシアにおける牧畜文明の変遷と社会主義』名古屋大学大学院文学研究科比較人文学研究室

鷲尾惟子『シルクロード・ウイグル族の音楽：その歴史と現在』アルテスパブリッシング（1,620円）

## 論文

- アナトラ・グリジャナティ「双語教育における道德教育の実施について：ウイグル族の事例を中心に」『国際教育文化研究』14, 81-89 頁
- .「中国少数民族地域における都市化と社会変動：新疆ウイグル自治区カシュガル市の事例を中心に」『アジア太平洋レビュー』11, 15-24 頁
- 岩垣穂大、齋藤篤、Amantay Zhanar、下田妙子、扇原淳「カザフスタン共和国のナウルズ(НАУРЫЗ)に見る食の文化的・歴史的特徴」『日本食生活学会誌』24(4), 254-260 頁
- Usmonov, Farrukh, “The Shanghai Cooperation Organization: Russia’s View on Iran’s Candidacy,” *Central Asia and the Caucasus: Journal of Social and Political Studies, Volume 15, Issue 3.*
- 大河内美紀「「民主主義」を考える：中央アジアにおける選挙を素材に（特集 国際協力と法：法整備支援の課題と展望）」『法学セミナー』59(2), 26-30 頁
- 大河内美紀「「司法の独立」のグローバル化とその困難：ウズベキスタンの事例から考える」『名古屋大学法政論集』(255), 519-553 頁
- 小沼孝博「中央ユーラシアの周縁化」『UP』43(12), 6-10 頁
- .「ヌサン使節の派遣：1757年における清とアブライの直接交渉」『アジア文化史研究』14, 1-20 頁
- Onuma, Takahiro, “The Qing Dynasty and Its Central Asian Neighbors,” *Saksaha*, 12, pp. 33-48
- Onuma, Takahiro, Kawahara Yayoi, Shioya Akifumi “An Encounter between the Qing Dynasty and Khoqand in 1759-1760: Central Asia in the Mid-Eighteenth Century,” *Frontiers of History in China*, 9(3), pp. 384-408
- 小野敬「ジャパン & ワールド 中華帝国の火薬庫：共産党弾圧下の新疆ウイグル自治区」『世界思想』40(2), 1-3 頁
- 笠原俊宏「トルクメニスタン共和国国家族法典中の国際私法規定」『東洋法学』57(3), 331-339 頁
- .「タジキスタン共和国国家族法典中の国際私法規定」『東洋法学』57(2), 59-67 頁
- 河野明日香「独立後のウズベキスタンにおける中等教育改革の動向と特質」『教育制度学研究』21, 262-267 頁
- 河野明日香「書評 関啓子著『コーカサスと中央アジアの人間形成』」『比較教育学研究』48, 152-154 頁
- 河原弥生「研究フォーラム 中央アジア・イスラーム史：民間所蔵史料による研究の可能性（世界史の研究(238)）」『歴史と地理』671, 48-51 頁
- 木村暁「ウズベキスタン伝存の西徳二郎書簡をめぐって」『アジア・アフリカ言語文化研究』88, 5-41 頁

- 久保一之「ミール・アリーシールの家系について：ティムール朝における近臣・乳兄弟・譜代の隸臣・アミール」『京都大學文學部研究紀要』53, 141-233 頁
- 熊倉潤「民族自決と連邦制：ソ連中央アジア地域の国家建設（一九二三—一九二四年）」『ロシア史研究』94, 3-21 頁
- 熊谷瑞恵「ムスリムの国へ行ったムスリム：トルコ・イスタンブルに住む中国新疆ウイグル族の事例から」『国立民族学博物館研究報告』38(2), 187-250 頁
- 河野敦史「七人のホージャたちの侵入事件（1847年）におけるベクたちの動向：カシュガルへのベクたちによる防衛を中心として」『内陸アジア史研究』29, 111-133 頁
- 小島康誉「スタイン第四次新疆探検とその顛末」『佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要』10, 1-163 頁
- . 「スタイン中央アジア探検と日中共同隊」『佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要』11, 19-25 頁
- 小松久男「中央アジア地域研究の試み：ソ連時代の記憶を中心に」『学術の動向』19(8), 54-58 頁
- . 「タシュケントのアメリカ人」『れにくさ =Реникса：現代文芸論研究室論集』5, 250-260 頁
- 齋藤竜太「水資源問題をめぐる中央アジア国家間対立の実証分析：ICWC 紀要を資料に」『筑波大学地域研究』35, 163-182 頁
- . 「中央アジア水セキュリティへの日本の関与：JICA「水管理改善プロジェクト」からの一考察」『国際日本研究』6, 47-57 頁
- 坂井弘紀「中央ユーラシアの母神ウマイ」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』16, 13-30 頁
- 櫻井良樹「新疆と近代日本との関係史スケッチ」『中国研究』22, 65-82 頁
- 真田安「乾隆25年カシュガル反乱：中央アジア・オアシス社会の権力構造の究明にむけて」『中央大学アジア史研究』38, 148-112 頁。
- 澤田稔「『タズキラ・イ・ホージャガン』日本語訳注（1）」『富山大学人文学部紀要』61, 59-86 頁
- 塩野崎信也「「タタール」から「アゼルバイジャン」へ」『オリエント』57(2), 41-62 頁
- 澁澤幸子「オスマン帝国時代からのパートナー クリミア・タタール人はいま」『Anatolia news』138, 42-46 頁
- 清水由里子「中華民国期におけるウイグル人の民族アイデンティティ」松本ますみ編『中国・朝鮮族と回族の過去と現在：民族としてのアイデンティティの形成をめぐって』創土社，151-182 頁
- 新免康「二〇世紀前半期におけるムスリム住民の活動とスウェーデン伝道団」中央大学人文

- 科学研究所編『アフロ・ユーラシア大陸の都市と国家』中央大学出版部、399–470 頁
- Shinmen, Yasushi, “Hākīm begs and the Qing Dynasty in the *Addendum to the Turkic translation of Tārīkh-i Rashīdī*’s descriptions of the 19th century,” Aysima Mirsultan, Mihriban Tursun Aydın and Erhan Aydın, eds., *Eski Türkçeden Çağdaş Uygurcaya: Mirsultan Osman ’in Doğumunun 85. Yılına Armağan*, Konya: Kömen Yayınları, pp. 271–283.
- Sugawara, Jun, “Expanded Texts of “Martyrdom”: The Genesis and Development of the Uighur Legend of Abdourahman Han,” *Eurasian Studies*, 12, pp. 417–435
- Sugawara, Jun (written), Busarem Imin (trans.) “Ülgilär wä Ämäliy Höjjätlär: Shinjangning köp khil qanunlar اساسidiki yärkhät ülgilirining qelipliri toghrisida,” Aysima Mirsultan, Mihriban Tursun Aydın, Erhan Aydın, eds., *Eski Türkçeden Çağdaş Uygurcaya: Mirsultan Osman ’in Doğumunun 85. Yılına Armağan*. Konya: Kömen Yayınları, pp. 139–161
- 孫曉英「中国における少数民族の言語学習に関する一考察：カザフ族へのインタビュー調査を事例として」新保敦子編『中国エスニック・マイノリティの家族：変容と文化継承をめぐる』(早稲田大学現代中国研究叢書 4) 国際書院, 107–127 頁
- 丁輝「新疆に生きる：回族女性教師へのインタビューから」新保敦子編『中国エスニック・マイノリティの家族：変容と文化継承をめぐる』(早稲田大学現代中国研究叢書 4) 国際書院, 245–276 頁
- トフタミルザエヴァ・マシフラホン、蒲生 慶一「独立後のウズベキスタンにおける教育改革と就学率の変化：教育改革の今後の課題」『クアドランテ』16, 153–175 頁
- トフタミルザエヴァ・マシフラホン「春季研究会推薦論文 ウズベキスタンにおける教育の現状：ナマンガン州の事例を中心に」『国際教育』20, 56–65 頁
- トフタミルザエヴァ・マシフラホン「現代ウズベキスタンにおける教育の平等化をめざして：関啓子『コーカサスと中央アジアの人間形成』を読んで」『クアドランテ』16, 225–235 頁
- 西原誠司、クディロク・カディル「消えつつある傷つきやすい人々の声“刑事免責”の4年間 東トルキスタンにおける市民の強制失踪：世界ウイグル会議 2013 年 7 月」『研究紀要』87, 57–105 頁
- 西脇隆夫「ウイグル族昔話目録（初稿）」『名古屋学院大学論集・言語・文化篇』25(2), 149–166 頁
- 野田仁「日本から中央アジアへのまなざし：近代新疆と日露関係」『イスラーム地域研究ジャーナル』6, 11–22 頁
- 箱田恵子「英露対立と薛福成：パミール交渉への対応を中心に」『宮城教育大学紀要』49, 79–90 頁
- パレパ・ラウラ - アンカ「上海協力機構と中央アジアにおける中国の戦略的利益」『アジア・

- 『アフリカ研究』54(2), 23-50 頁
- ヒクマトラエフ, ジャスル「近代トルキスタンにおけるジャディード運動: ベフブーディーの教育論を中心に」『言語・地域文化研究』20, 375-391 頁
- 胡振華 (犬塚 優司訳注)「翻訳 中央アジアのドゥンガン民族と中国の回回民族」『総合政策論叢』28, 77-83 頁
- 日高晋介「ウズベク語の他動性」『語学研究所論集』19, 153-171 頁
- 藤波伸嘉「ギリシア東方の歴史地理: オスマン正教徒の小アジア・カフカース表象」『史苑』74(2), 67-101 頁
- 穆淑恵 (苗婧訳, 犬塚優司訳注)「(翻訳) 私が知っている中央アジアのドゥンガン人」『総合政策論叢』28, 73-76 頁
- ポゴシャン・グラント「キーバソソに訊く アルメニアにはロシアか欧州かの二者択一はない」『ロシア NIS 調査月報』59(8), 22-27 頁
- 前田弘毅「コーカサスを見る視点」『ロシア NIS 調査月報』59(8), 12-21 頁
- 丸山鋼二「ヤルカンド・ハン朝の建国と「聖戦」: 新疆イスラム教小史 (7)」『文教大学国際学部紀要』24(2), 47-64 頁
- 水落いづみ「中央アジアの言語と日本語: ウズベク語とタジク語」『独立行政法人日本学生支援機構日本語教育センター紀要』10, 75-88 頁
- 宮田律「中国のウイグル民族問題」『治安フォーラム』20(12), 28-31 頁
- 宮脇淳子「ウイグルチベット モンゴル「弾圧」への抵抗をなぜ「テロ」というのか!」『歴史通』31, 20-29 頁
- ムフタル・アブドゥラフマン「ファーラービーにおける理想的国家論: ウイグル哲学におけるギリシア哲学の受容」『哲学論文集』50, 1-19 頁
- 八木風輝「社会主義期におけるモンゴル・カザフの民族音楽の創造: 民族音楽文化の移植と並立する2つのカザフ民族音楽」『人間文化: 滋賀県立大学人間文化学部研究報告』37, 23-37 頁
- 湯浅剛「中央アジアにおけるロシア主導の多国間協力: 集団防衛と経済統合の展開」『防衛研究所紀要』16(2), 53-72 頁
- 楊海英「ウイグル人のレジスタンスは何を発信したのか: 「諸民族の大家庭」のための民族自決権」『世界』851, 260-266 頁
- 吉田達矢「戦前期における在名古屋タタール人の交流関係に関する一考察」『アジア文化研究所研究年報』48, 247-258 頁
- リシャラテ・アビリム「新疆ウイグル自治区・トルファン市郊外における農家楽の現状と課題」『やまぐち地域社会研究』12, 91-102 頁

リズワン・アブリミティ、大谷順子「中国新疆におけるウイグル族の学校選択」『21世紀東アジア社会学』(6), 156-171 頁

鷺尾惟子「観光化政策が与えた芸能への影響: 中国・新疆ウイグル人の民間芸能「ドラーン・メシュラップ」を事例に」『音楽表現学』12, 47-52 頁